



△「生徒玄関前での検温カードの回収」

<5/25…学年別登校・進路ガイダンス実施>

5月25日(月)より、緊急事態宣言の解除に伴い、県内の各学校が再開され、本校も学年ごとではあるものの、登校が再開されました。緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルスに対する感染防止対策は継続することが求められているため、生徒玄関では検温カードの回収と体調のチェックが行われ、身体的距離をできるだけ保つなど、いわゆる「新しい生活様式」に則った形での登校再開となりました。これまでの学校生活の在り方とは異なる対応が強いられるとはいえ、やはり生徒が登校してきた学校というのは、挨拶や笑

い声が聞こえ、これまでの休業中の学校とは全く別物であり、**学校の活力というのは生徒たちによってもたらされていることを改めて実感**しました。マスク姿の生徒たちを目にしなが、一日も早く、通常通りの学校生活が送れるようになることを切に願った朝でした。

再開後、初日の25日は午前中が3年生、午後が2年生の登校でした。LHRなど各クラスでの活動は、生徒同士の間隔が確保できる特別教室を利用して行い、学年で行う集会などは2グループにクラスを分けて時間差を設けて実施されました。

3学年の集会内では、4月にフロンティア探究の時間に行われる予定だった「**進路ガイダンス**」が実施されました。この中では、今春の卒業生の入試結果をまとめたデータを3年生に提示しながら、昨年度受験状況の分析が示され、また今年から変更となる新しい入試についても説明されました。そして、最後にこれから受験生として、合格を目指してどのような心構えで臨むべきかという指針が4つ提示されました。以下がその4つです。

- ① **学習を生活の中心に据える！**
- ② **「情熱」と「冷静」のバランスを**
- ③ **やるからには最後までやり抜く！**
- ④ **「感謝の心」と「広い視野」で**



進路関係行事の変更

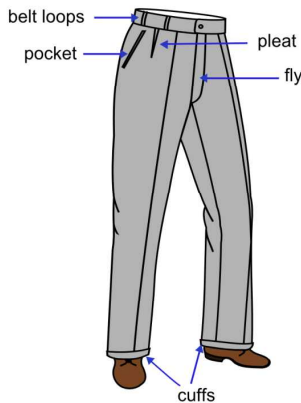
新型コロナウイルス感染拡大による休業が実施されたため、年度当初の計画を大幅に変更しなければならない事態となっています。

緊急事態宣言は解除されましたが、治療法が確立していない状況では、新型コロナウイルス感染症対策は依然として継続し、学校においても様々な対策を講じたうえで各行事などを行っていく必要があります。そのため、**今後の進路関係行事（講演会・模擬試験・学習会など）についても中止や延期になる可能性**がありますことをご承知おきいただければと思います。

①については、言わずもがなですが、一人一人が必死に学習に取り組むことで、クラス全体に、学年全体に受験に向かう雰囲気は広がっていきます。**受験は個人戦でもあり団体戦**でもあります。まずはきちんと学習に取り組むことが大切です。②の「情熱」は**志望に対する強い思い**をもつこと、「冷静」は**自分と志望校との距離を見極めて周囲の助言にも謙虚に耳を傾けること**を意味します。③については国公立大学で言えば**欠席率の高い「後期試験」まできちんと受験**することで合格する可能性は高くなります。最後まで諦めないことがチャンスを生みます。④は受験だけに限ったことではありませんが、何かを成し遂げるためには**「他者の協力」**が必ず必要になります。常に感謝の気持ちを忘れず、**周囲から応援される受験生**になることが合格する秘訣のひとつです。この4つを念頭に置き、志望校合格に向けて頑張りましょう！

<進路を考えるヒント 「ピチピチのスラックス」は存在しない・国家百年の計>

もしかしたら、おぼえている人もいるかもしれませんが、昨年度、この進路を考えるヒントで『京大的アホがなぜ必要か〜カオスな世界の生存戦略』（集英社新書）という本を紹介しました（気になる方は昨年度の5月号の進路だよりをご覧ください。南高のウェブサイトでバックナンバーが見られます）そこでは「イノベーションを生み出すには、アホ（無駄と言いつてもいい）が必要」「選択と集中では社会の複雑化に対応できないから、アホによる多様性が大切」という話をしました。今回の進路を考えるヒントはその内容を引き継いだような話題ですが、コロナ禍のような危機的状況の発生に備える心構えになればと思います。



まず、言葉の説明から始めましょう。冒頭の「ピチピチのスラックス」は存在しないとは何か？スラックスというのは、例えば南高の男子の制服にも使われている「ズボン」のことを指しますね。英語ではslacksです。ズボンは足を入れるところが2つあるので、1本でも必ず複数形（trousers / pants / jeans）というのは英語の授業でよく言われますが、スラックスも同じですね。このスラックスという言葉のもとになった語はslackという形容詞で、「ゆるい・たるんだ」（ジーニアス英和辞典第5版）という意味を表します。「ゆったりしたズボン」なので「スラックス」、つまり「ピチピチのスラックス」は存在しないというわけです。で、これが一体危機的状況とどんなつながりが…？

実はこの「slack・スラック」という言葉は経営学上の用語でもあり、先ほどのジーニアス英和辞典にも名詞の2番目の意味として、「余剰資金[人員,空間]」ときちんと記載されています。つまり「スラック」というのは経営上は「余剰」であり、それは時として「無駄」と考えられるものなのです。それ故、かつて日本の大手自動車メーカーに代表されるように、企業は事業効率を最大化すべく、徹底的に無駄を排し、生産過程においても「必要なものを・必要な時に・必要なだけ」供給するようなシステム（ジャストインタイムシステム）を取っていた/いるわけです。もちろん、企業経営戦略としては事業を効率化して利益を最大化しようとするのは至極当然のやり方です。しかし、物事にはどんなことにもメリット・デメリットというものはありますから、このやり方にも欠点があります。例えば、**3・11の東日本大震災**の時に、部品の調達を「選択と集中」で被災地となった地域の企業に絞っていたために生産が停止してしまったなんて言う話もありましたし、今回の**新型コロナウイルス感染症の拡大**においても、供給の7割ほどを中国からの輸入に頼っていたマスクについては、急激な需要の増加に耐えきれず、品切れが続き購入ができない状態になってしまいました。さらに、このコロナ禍では、マスクや消毒用アルコールのみならず、人命にかかわる人工呼吸器やECMO（人工心肺装置）といった医療機器、さらには病院の病床数においてさえも不足となる事態が懸念されていた/しているわけです。

そんな状況で輝きを放つのが「スラック」の存在です。平時においては、万が一のことを考えてスラックを準備しておくのは確かに「ムダ」でしょう。でも、今回の**100年に一度と言われるコロナ禍**のような事態が生じれば必ず多くの人間が犠牲になります。もし、人々を率いる優秀なリーダーがその万一の事態に備えて、**リスクを回避する手段としてスラック戦略**を取り、**一見「ムダ」に思える態勢をとって**いれば、**犠牲を最小限に抑えることができる/たかもしれません**。いや、むしろその逆で**100年**というような**長期的な展望をもって**、**人々の暮らしや命を守るためにはスラック戦略が必要だと決断できる人こそが、「優秀なリーダー」と言えるの**かもしれません。誤解のないように繰り返せば、何をもち「ムダ」とするかは、あくまでも「どのくらいのスパンで物事を見ているか」によります。「**国家百年の計**」と言われるように、私たちの住む日本という国が今後100年経っても「**誰もが健康で文化的な最低限度の生活（日本国憲法第25条）を送れる**」ようにしたいと考えるのであれば、これまでの災害や危機の経験から学び、スラックを準備しておくことは大切なのではないかと思います。これからの社会を担うことになる南高生には、ぜひ、目先の利益のみに惑わされたり、近視眼的な考え方に囚われたりせず、長期的なスパンで、多面的な視点から物事の是非を弁ずるような姿勢をもってほしいと思います。